

評価・評定について

◆評価・評定に関する基本事項

評価の「公平性」を保つために、学校としての評価規準と評価基準を作成する。

評価規準・・・生徒につけさせたい力を、具体的な生徒の成長の姿として文章表記したものである。

評価基準・・・評価を行う際の「尺度」である。（各教科統一）

「評価規準」と「評価基準」の違い

○何かを評価する場合には「ものさし」が必要です。

評価規準は、ものさしの種類。 【何を測定するか】

評価基準は、ものさしの目盛りです。 【どこまで達成できたか】

◆観点別学習状況の評価

観点：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点の「評価基準」に照らし合わせて、達成状況をA・B・Cの三段階で絶対評価する。

ア. 評価の基準

A：「『十分満足できる』状況と判断されるもの」 (80%以上～100%)

B：「『おおむね満足できる』状況と判断されるもの」 (50%以上～80%未満)

C：「『努力を要する』状況と判断されるもの」 (0%以上～50%未満)

イ. 評価の手順

①本人の学習状況を観点別に点数化する。

②観点別学習状況の点数を達成値（満点に対する本人がとった割合）に直す。

③上記のABCの基準に当てはめ、評価していく。

授業中の取り組みや発言、ノートやプリント・ワーク等への取り組み、定期考査の結果等、学習の様々な場面を振り返り、達成できたところは更に伸ばし、達成できていないところは努力して克服していくことができるようにするためのものです。

◆評定

必修教科については、教科ごとに「目標」に照らして観点別学習状況の評価を総括し、評定します。

ア. 評定の基準

5：「『十分満足できるもののうち、特に程度が高い』状況と判断されるもの」
(90%以上～100%)

4：「『十分満足できる』状況と判断されるもの」 (80%以上～90%未満)

3：「『おおむね満足できる』状況と判断されるもの」 (50%以上～80%未満)

2：「『努力を要する』状況と判断されるもの」 (20%以上～50%未満)

1：「『一層努力を要する』状況と判断されるもの」 (0%以上～20%未満)

イ. 評定の手順

①観点別学習状況の達成値（満点に対する本人がとった割合）の平均値をとる。

②出した平均値を評定の基準に当てはめ、評定を出していく。

◆ 評定

観点別学習状況の評価と評定の関係での注意点

ア 同じAでも100%のAもあれば80%のAもあるので、次の例のように、評定と観点別評価が逆転する場合があります。

イ 評定総括表例（3観点の割合が1:1:1の場合）

| 観点別評価 | 全体の達成率 (%) | 評定の範囲 |
|-------|--------------|-------|
| A A A | 80.0～ 100 | 5 4 |
| A A B | 70.0～ 93.3未満 | 5 4 3 |
| A B B | 60.0～ 86.6未満 | 4 3 |
| A A C | 53.3～ 83.3未満 | 4 3 |
| B B B | 50.0～ 80.0未満 | 3 |
| A B C | 43.3～ 76.6未満 | 3 2 |
| B B C | 33.3～ 70.0未満 | 3 2 |
| A C C | 26.6～ 66.6未満 | 3 2 |
| B C C | 16.6～ 60.0未満 | 3 2 1 |
| C C C | 0.0～ 50.0未満 | 2 1 |

◆ 「特別の教科 道徳」の評価

学習状況や道徳性に係る成長の様子を、学期や年間を通じて発言や議論、感想文・質問紙の内容等から見取り、記述します。

◆ 「総合的な学習の時間」の評価

学習活動に準拠した観点に基づいて、学習内容とそれに対する取り組み等を記述します。

★ 通 知 表 について

《1, 2年生》

* 1, 2学期はそれぞれの学期の観点別学習状況の評価（A・B・C）と評定（5・4・3・2・1）が記入されます。

* 3学期は学年として1～3学期を総合した観点別学習状況の評価と評定が記入されます。

《3年生》

* 1学期は観点別学習状況の評価（A・B・C）と評定（5・4・3・2・1）が記入されます。

* 2学期は1学期および2学期を総合した観点別学習状況の評価と評定が記入されます。

* 3学期は1, 2年生と同様に、学年として1～3学期を総合した観点別学習状況の評価と評定が記入されます。